

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
23	<p>長い間川崎市立小学校の教員をしてきました。他の施設を探すということは、学校ごとにそれぞれで探すということですか。それでは学校の負担がより大きくなるのではありませんか。</p>	<p>自然教室について、他施設での実施に当たり、学校が検討しやすいよう、施設の基本情報や、実施時期の気温情報も含めた周辺環境等について、メリット・デメリットも含め分かりやすくまとめた「自然教室実施候補地カタログ集」を教育委員会事務局で作成しており、教員が実際に確認できるよう、実施施設を決定する際には長期休業期間を中心に視察ツアーを開催し、施設決定後は各校最大3回の実地踏査をできるようにしているほか、施設の予約やバスの手配についても、事務局で手配しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
24	<p>現在の施設の再整備や移転に多額の費用がかかるため、自然教室は他施設を使用する方向性としてはよいと思います。</p> <p>実施場所について、私が勤務する学校では、職員や児童の声を聞かずに管理職と総括教諭で実施場所を決めましたが、自然教室に行く子どもたちは決まっているため、子どもたちが投票できるようにしてもらえるとよいかなと思います。</p> <p>また、現在対象施設に含まれていない施設も検討できるようにしてほしいです。</p>	<p>自然教室について、実施場所の選定に当たっては、自然教室の実施目的に沿って、子どもたちにどのような学びや体験をさせたいか、学校ごとに考え、その実情に合わせて、充実した活動ができる時期や施設を選ぶ手法は、今の学校にマッチしており、宿泊施設のキャパシティなど物理的に難しい場合もあるものの、子どもの意見を聞くことも含め、各学校の実情に合わせて決定すべきものと考えています。</p> <p>また、対象施設については、関東近県120か所近くの候補施設から、充実した自然体験活動が可能で、十分な活動時間が確保できる可能性が高いと考えられる施設を視察し、施設や周辺環境等の状況、詳細な利用条件等の確認を行い、これまで八ヶ岳少年自然の家で培ってきた自然教室とほぼ同等、又は、場合によってはより充実した活動ができると想定される施設を選定しています。御提案いただいた施設についても視察等を行っており、空きがないなどの理由で除外しましたが、学校がより多くの選択肢から選べ</p>	B

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>ることが重要であることから、更なる利用施設の拡充に取り組んでまいります。</p>	
25	<p>川崎市を中心に活動している天文同好会です。年4～5回少年自然の家で天体観察をしたり、天体写真を撮影しています。</p> <p>自然教室の負担について、教員の方々も施設の下見から運営までの負担が増えるものと思います。看護師や添乗員など他施設で行う場合のメリットは自然の家で実施する場合も導入可能かと思えます。</p>	<p>他施設で実施する場合は、引率する教員の負担軽減策として、旅行会社からのアドバイスや最大3回の実地踏査をできるようにし、施設ごとにGoogle クラスルームを開設し、各学校のプログラムや実施結果等を共有できるようにするなど、新たな行程表づくりをフォローする体制を整えています。また、宿泊施設等との連絡調整や支払業務を担う添乗員の同行、看護師の全校派遣など、教員が児童生徒の指導に専念できる体制を整えたほか、教員を目指す大学生等が教員を支える指導補助員制度の充実を図ったり、他施設においても様々な専門家の協力を得ながらプログラムを実施するなど、教員を支える対策も講じています。</p> <p>なお、八ヶ岳少年自然の家で実施する場合は、市の施設であり、維持管理する指定管理者がいることから、添乗員は同行の必要がないこと、看護師については、小学校においては複数校に1人ではあるものの、現状も同行していません。</p> <p>今後も引き続き、教員が安心して自然教室の実施に専念できるよう、負担軽減に取り組みながら、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
26	<p>方向性案では、「他施設活用」がもっともコスト効率に優れ、バス手配の困難さにも対応できる選択肢であるとされていますが、いくつかの疑問があります。</p> <p>●バス手配問題の「一時性」への検証不足</p> <p>バス運転手不足や入札不調は全国的な問題であり、一時的な需給ひっ迫の影響も大きいと考えられます。鉄道利用や複数校でのバス共同利用など、柔軟な工夫によって乗り切る余地があるにもかかわらず、</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家で自然教室を実施する場合、年間600台、小学校では2～3校が同日に実施するため、常時10台以上のバスを走行させる必要があること、学校での鉄道利用については、相当数の人数での移動になるため、鉄道会社との事前の調整が相当必要であることなどから、交通手段の安定的な確保は、自然教室の持続可能な実施手法を検討するに当たって重要な要素の一つであると考えてい</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>「バスが確保しにくい」ことを施設廃止の大きな理由とするのは短絡的ではないでしょうか。</p> <p>●社会教育施設に対する「費用対効果」一辺倒の評価</p> <p>社会教育や自然体験活動は、本来、短期的な金銭的「効果」で測りにくいものです。探究的な学び、豊かな人間形成、コミュニティの形成など、長期的かつ非金銭的な価値を生み出す領域において、「年間コストの比較」で結論を出すことは乱暴なことと言わざるを得ません。</p> <p>●「他施設で目的は達成できる」ことと「自前施設の価値」は別問題</p> <p>他施設でも確かに楽しい体験はいろいろ想定できますが、それがレジャーや観光旅行のような消費体験にとどまる懸念は払拭できません。反面、自前の豊かな自然環境の教育施設を持ち続けることによって、より深い学びの可能性を得ることができます</p>	<p>ます。</p> <p>また、自然教室は、学習指導要領に定める特別活動の一つとして、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つであり、子どもたちのその後の成長や社会的自立に向けた資質、能力の育成にとって、大きな教育的意義があるものと考えていますが、市税という限りある財源を活用する以上、コスト比較の観点が必要不可欠であり、これまでの実施結果からは、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
27	<p>方向性案では、各学校がそれぞれ異なる行き先を選択することができるという形が想定されています。しかし、この方式は現場の教員にとって大きな負担増につながる懸念があります。</p> <p>行き先が毎年変わることで、担当教員はその都度、未知のフィールドの事前調査を一から行わなければなりません。学校として毎年同じ行き先を選んだとしても、教員の異動により担当者が同じ施設を経験しているとは限らず、毎年度「どこに行くか」から検討し直す必要が生じます。</p> <p>一方、私たちはこれまで、バードウォッチング（日本野鳥の会）、植物観察ガイド、ツリーライミング指導者など、多様な専門家の協力を得ながら、質の高い体験活動を実施してきました。こうした外部人材の協力は、毎年同じ施設を使うからこそ得やすく、継続的な関係構築が可能になります。</p> <p>こうしたやり方を自然教室でも考えれば、教員の負担軽減と体験の</p>	<p>教員の負担軽減策については、他施設においてもノウハウが蓄積されるよう、各学校においては、旅行会社からのアドバイスや最大3回の実地踏査をできるようにし、学校間においては、施設ごとにGoogle クラスルームを開設し、各学校のプログラムや実施結果等を共有できるようにするなど、新たな行程表づくりをフォローする体制を整えています。</p> <p>また、宿泊施設等との連絡調整や支払業務を担う添乗員の同行、看護師の全校派遣など、教員が児童生徒の指導に専念できる体制を整えたほか、教員を目指す大学生等が教員を支える指導補助員制度の充実を図ったり、他施設においても、様々な専門家の協力を得ながらプログラムを実施するなど、教員を支える対策も講じています。</p> <p>今後も引き続き、教員が安心して自然教室の実施に専念</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	質の向上にもつながり、社会教育の力を生かした「働き方改革」にもなると思います。お金はかかりますが、これを機会に自然教室の在り方を教員主導のやり方から社会人人材を援用して教員の負担軽減につなげていく発想に転換したらいかがでしょうか。	できるよう、負担軽減に取り組んでまいります。	
28	小学校、中学校の子どもがいますが、八ヶ岳少年自然の家の利用を止め、他施設の利用をすることには概ね賛成です。昨年度行った中学生の子どもは床の老朽などが気になったと申ししておりました。また、スキー場から自然の家が遠く、スキーに触れる時間も限定的だったのが親として残念に思うところでしたので、近場の宿泊施設が利用できればありがたいと思います。	自然教室について、これまでの他施設での実施結果から、児童生徒の9割以上は充実した活動ができたと回答し、教員からは、移動時間が短縮されたことで児童生徒の活動時間をより多く確保できた、ゆとりある充実したスケジュールを組むことができたとの意見があるなど、おおむね好評を得ていることから、今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法を継続してまいります。	B
29	川崎市在住ですので、八ヶ岳での自然教室が川崎市の小学生にとって当たり前のもので思っていました。他施設の利用で移動距離が短くなれば、子どもの体力的な負担も減ることを考えると、メリットも多いと感じました。中学生以降は私立に進学する子どももいることを考えると、少なくとも小学生のうち、可能であれば神奈川県内やその近隣の県（山梨・静岡・千葉など）を中心に施設を選べるようにするとよりいいのではと感じました。	これまでの他施設での実施結果から、児童生徒の9割以上は充実した活動ができたと回答し、教員からは、移動時間が短縮されたことで児童生徒の活動時間をより多く確保できた、ゆとりある充実したスケジュールを組むことができたとの意見があるなど、おおむね好評を得ていることから、今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法を継続してまいります。	B
30	青少年施設として廃止する案に反対します。 代替施設を活用する案が示されていますが、八ヶ岳ならではの自然環境、活動プログラム、宿泊体験の質を同等に確保できるかは不透明です。自然教室は「どこでやっても同じ」ではなく、環境・季節・地形・施設規模などの条件が教育効果に直結します。代替先が民間施設となる場合、費用負担や受け入れ枠の問題から、公平性の確保も難しくなります。自然体験・環境教育の質が代替施設で確保できる保証がありません。	自然教室については、八ヶ岳少年自然の家を利用する場合であっても、各学校が活動内容を選択していることから、学校ごとに多様なプログラムが行われており、保護者負担額についても学校ごとに差が生じています。 なお、自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自然教室での活動や学びを通して成長できるようにすることが重要であり、そうした活動に全ての子どもが参加できるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。</p> <p>また、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
31	<p>市外在住・在勤ではありますが、かつて市内の中学校に通い、所属していたスポーツクラブの選手・指導者として利用していました。</p> <p>現在、在住・在勤している自治体では、青少年の課外学習施設は市内にあることが多いようですが、八ヶ岳少年自然の家は長野県にあり、そこに到着するまでの時間が、ワクワクする気持ちを増幅させたり、移動の時間というのは、その年代にとって、かけがえのないものであったりします。先生にとっては、移動時間の短縮により指導時間が増やせるという意見もあると思いますが、指導と自由時間の中間のような曖昧な時間帯を、バスの中等の閉鎖された環境で過ごすことは、先生、生徒お互いに、そう悪いものでもなかったように思います。</p>	<p>他施設での実施結果からは、移動時間が短縮されたことにより、児童生徒の活動時間をより多く確保できた、ゆとりある充実したスケジュールを組むことができたとの意見のほか、児童生徒の体調不良時、保護者による引取時間が短縮される等迅速な対応が可能など、そのメリットについて多くの意見がありました。</p> <p>自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>然教室での活動や学びを通して成長できるようにすることが重要であり、そうした活動に全ての子どもが参加できるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
32	<p>八ヶ岳少年自然の家をどうしても廃止するなら、これからの子どもたちの学習がしっかりと担保される場所を見つけるまでは八ヶ岳で続けてもらいたい。</p>	<p>全市立小中学校での確実な実施に向け、バスの早期確保や利用施設の拡充など、持続可能な実施手法を検討した結果、令和8年度実施分において、小学校115校のうち52校が、中学校52校のうち41校が他施設で実施することとなり、八ヶ岳少年自然の家の施設閉止となる令和10年度までに、全校他施設での実施は可能と判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D

(2) 八ヶ岳少年自然の家に関すること (42 件)

	意見 (要旨)	市の考え方	対応区分
33	<p>スキーで毎年1月と2月に利用しています。</p> <p>八ヶ岳自然の家は老朽化ということ、また、土砂災害等の危険性もあることから、自然教室は他の施設での開催ということで残念ですが、八ヶ岳少年自然の家を今までどおり一般利用ができるよう存続してほしいと思っています。川崎にはない自然色々と経験や体験ができる施設は中々ないと思います。来年も利用できることを願っています。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けているほか、設備機器についても多くが耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p>	D
34	<p>市内のNPO法人として、夏場は自然体験型イベント、冬場はスキー教室などで利用しています。</p> <p>自然豊かな環境で普段活動できないことを体験できるのはとても貴重で、子どもたちも楽しみにしており、保護者からも大変好評で、リピーターでの参加やイベント後家族で利用しているケースも見られます。八ヶ岳少年自然の家を今後も利用させていただきたいと考えておりますので是非、再検討の程お願いいたします。</p>	<p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなることで、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	
35	<p>青少年施設として廃止する案に反対します。</p> <p>八ヶ岳少年自然の家は単なる宿泊施設ではなく、川崎市の子どもたちにとって“自然の中での集団生活・自立性・協働性を育む拠点”として特別な役割を果たしてきました。</p> <p>市民に共有されてきた教育的・文化的価値の大きさを考えると、このような公共資産を失うことは、市としての歴史や市民の共有体験を断ち切ることに繋がります。代替では完全に補うことはできません。廃止ではなく、存続と改善を前提とした再検討を強く求めます。</p>	<p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなることで、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	
36	<p>青少年施設として廃止する案に反対します。</p> <p>八ヶ岳少年自然の家は、市立学校だけでなく子ども会・青少年団体など幅広い市民に開かれてきた公共施設です。廃止後は、こうした団体の活動場所が失われ、結果として「利用できる家庭/団体」と「利用できない家庭/団体」の格差が生まれる可能性があります。子どもの健全育成を目的とした公共施設は、将来世代のためにも継続的な運営が望まれます。</p>	<p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなることで、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
37	<p>八ヶ岳少年自然の家の一部が危険地域に指定されていると知り、不安に思いましたが、現地調査をした市議から、ほんの一部で危険は少ないとの説明を受けました。小中学校の自然教室やボーイスカウトなどの団体が利用する大切な施設、廃止は絶対反対です。ぜひ安全な地盤の上に新たな少年自然の家を新設及び改築して欲しい。他の行政施設の利用を勧めているようですが、他施設も築50年と、老朽化しているそうですね。川崎市の政令市トップの財政力を、子どもたちや市民のために使っていただきたいと切望します。ぜひ再考をお願いいたします。</p>		
38	<p>今回の「八ヶ岳少年自然の家は青少年教育施設としての用途を廃止する」という方向性（案）は、本当に残念です。サッカークラブの夏季合宿で利用してきました。二泊三日の合宿ではサッカーに関する活動だけでなく、高学年の子どもたちと低学年の子どもたちを混在させた班ごとの活動を中心に、子どもたちの自主性を引き出す活動もしており、最適な施設でした。</p> <p>また、費用的にも減免措置があり、大変リーズナブルに利用させていただいていた施設が利用出来なくなるのは、大変困った話です。</p> <p>ぜひ何らかの形で、利用継続できる方法も検討してください。</p>		
39	<p>この施設に楽しそうに向かう地学部を毎年楽しく見ていました。どうか宿泊施設を残して欲しいです。どうかお願いします。</p>		
40	<p>八ヶ岳少年自然の家は、学校利用だけでなく一般の市民にも開かれた保養施設としての役割を担ってきました。市民が豊かな自然の中で心身を休めることのできる公共施設は、都市化の進む川崎市において非常に貴重な存在です。特に夜空に広がる星空は、川崎近郊ではほとんど体験できない素晴らしいものであり、望遠鏡や観測所など観察環境も整っています。子どもたちが星空に感動し、科学や宇宙への関心を育む場として、また市民が自然と向き合う場として、少年自然の家を今後も存続・発展させることを強く望みます。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
41	<p>川崎市を中心に活動している天文同好会です。年4～5回少年自然の家で天体観察をしたり、天体写真を撮影したりしています。自然の家から撮影した美しい星空の写真などを、かわさき宙と緑の科学館等市内の施設で、市民の皆様に紹介する活動も続けています。少年自然の家の魅力にアストロハウスという天文施設があり、33年間、もう100回以上も利用しています。</p> <p>このアストロハウスは、国内はもとより世界に誇る天文教育施設で、自然教室では川崎の多くの子どもたちが毎年星空のすばらしさを体験しています。また、一般市民向けの観望会も年間を通じて実施されていて、公開天文施設として稼働率は日本屈指と聞いております。少年自然の家は、古くはなっていますが、よく整備されていてまだまだ利用可能だと感じています。あと3年で廃止というのはあまりに惜しい気持ちです。川崎の子どもたちが共通してこの八ヶ岳山麓という絶好の立地条件で、すばらしい自然や星空を案内してもらい体感することができるという施設を閉じるというのはあまりに残念な判断ではないかと思います。施設の整備は、時間をかけていくことで予算面での課題も対応できるのではないかと思います。現に開設から48年の間、問題なく利用できていることから、一定の対策を施しつつイエローゾーンでの整備も検討するとよいと思います。心配される大雨等の場合の利用中止等で事故は防げるものと思います。この点、専門的見地から更に検討した方がよいものと思います。じっくり時間をかけて検討・整備していくことを切に希望しています。</p>		
42	<p>あそこでの思い出は結構どころじゃないくらいとっても大事なものです。その思いを継いでいけないのはとても悲しい。確かに土砂災害危険区域かもしれませんが、取り壊すことは反対です。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
43	<p>全面的な廃止や新築による再編ではなく、保存と改修を前提とした継続利用の可能性を、今一度ご検討いただきたい。本施設の敷地内には、かつて「八ヶ岳少年自然の家」と「川崎市市民休暇村」が別棟として併存しており、教育利用と市民利用の双方の役割を担ってきた時代がありました。私自身も子どもが小さい頃から家族と共に繰り返し訪れ、宿泊や自然体験を重ねてきた、思い出深い場所です。一時期、一般市民の宿泊利用ができなくなり、今回の廃止の検討がなければ、一般市民が再び利用できる施設であったことすら知りませんでした。安全性の確保が最優先であることには、強く同意しますが、危険区域を除外し、安全が確保できるエリアに残る建物を活用した上で、配管を含む老朽設備の改修、耐震・防災上の補強を段階的に行い、必要最小限の施設を追加するといった方法も、現実的な選択肢として考えられるのではないのでしょうか。新築を前提として、非常に大きな費用が見込まれていますが、全面的な新設では、長年積み重ねられてきた思い出や場所性が失われることにもつながりますし、建築資材や人件費が高騰している現状も踏まえると、慎重な検討が必要だと感じます。市民が比較的リーズナブルな価格で利用できる公共の宿泊施設は、大変貴重な存在です。廃止ありきではなく、保存・改修・活用という視点を含めた再検討を、市民に残す方向での検討を切に望みます。</p>		
44	<p>48年前、公害の町と言われた川崎で、「せめて子どもたちには良い空気を吸わせたい」という思いから、先人たちは思い切ってこの土地を取得し、環境を整えてきました。教育にはお金がかかります。大きな投資だったと思います。まさに100年の計でした。その長年の努力と先見性を、「一時的なバス事情」とか「年間コストの差」などの理由で帳消しにしてしまっただけでは、将来振り返ったときに大きな悔いを残すのではないのでしょうか。本当にこんな宝物を手放してしまうのですか。10年後、20年後に「あのとき残しておけばよかった」と悔いることがないように、今一度立ち止まり、時間をかけた丁寧な議論と再検討を強く望みます。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
45	<p>2人の息子がおり、長男は自然教室で、次男はシラミ発生で自然教室が三浦に変更になったため、家族で利用しました。</p> <p>それまでは一般の川崎市民も利用できるとは知らず、宿泊や食事を含めても料金的に利用しやすく有り難い施設だと思いました。八ヶ岳少年自然の家は、ただそこで数日過ごすだけで心身がリラックスし、リフレッシュできます。自然散策やクラフト、アストロハウスでの星空観測などのお楽しみもあります。ただし、基本は自主活動であり特別なサービスは提供されないのが気楽なのも良い点です。</p> <p>施設の老朽化などの理由で、今後子どもたちの自然教室の利用はなくなるとのことですが、この環境と施設は、たとえ全てではなくても、市民のために残して欲しいと思います。川崎市民でも、こちらの施設の存在すら知らない人は多いと思います。今後利用できる所は残し、利用対象層を拡大し、アストロハウスや食堂は民間企業と協力したり、健康増進施設としての機能を持たせるなどし、それに伴い利用料金も改定してはどうでしょうか。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、規模縮小の場合であっても、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>なお、施設の特性上、平日は主に学校での利用が想定されること、また、施設の立地上、自然教室以外の利用状況からは、市内の団体や家族・グループの利用は、長期休業期間や3日以上の子連休での利用が多く、普段の土日の利用は少ない状況を鑑みると、PR活動や創意工夫により、他都市の学校や一般の利用が増える可能性はありますが、主な利用が他都市になる中、限りある財源である市税を投入し続けることはものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	D
46	<p>川崎市が掲げる多様性は、人だけでなく、学びの場の多様性にも反映されるべきです。川崎の子を川崎の都会の中だけでなく、広い世界とのつながりの中で育てていきたいものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 農山村留学や林間学校のような取り組み</li> <li>- 不登校特例校（学びの多様化学校）との連携</li> <li>- 友好都市との交流拠点（特に富士見町と積み重ねてきた交流価値は計り知れない。）</li> </ul> <p>こうした文脈の中で、八ヶ岳少年自然の家の「次のかたち」を構想</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、規模縮小の場合であっても、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>することも可能なはずですが、私的には今の形をベースに改善するのが最善と考えますが、規模や機能の見直しという視点もありかと思えます。長期滞在型の学びの場としての再編など、「市が郊外に持つ教育拠点」としての将来像という観点からも、もっと時間をかけて検討すべきだと考えます。</p>	<p>け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、跡地については、自然教室の他施設移行が完了し、施設設置条例の廃止予定である、令和10年度を目途に、富士見町の意向等も確認しながら、あり方について検討を進め、方向性を決定いたします。</p>	
47	<p>土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）および警戒区域（イエローゾーン）の指定を受け、安全性への懸念が示されていることは理解します。しかし方向性案では、指定を受けたのが遡って平成25年(12年前)であるのに、なぜ今になって「廃止を含めた検討」に直結するほどの重大事と判断したのか、指摘を受けてから現在までの長期間、なぜ利用を継続してこられたのか、避難計画等のソフト面に加え、ハード面の対策を時間をかけて検討する余地はないのかといったことについて、十分な説明がなされていません。もし本当に切迫した危険があるのであれば、まずは速やかな利用中止が行政の責任ある対応であったはずが、天候に応じた判断や避難路の確保等によりリスクコントロールが可能なのであれば、「即廃止」を前提とするのではなく、改善・対策の道を探るべきではないでしょうか。</p> <p>そもそも、市が保有する敷地は他都市もうらやむ36万㎡という広大な土地です。ほんの一部が警戒区域にかかっているだけですべてを手放す必要があるのでしょうか。自然体験に伴うリスクを過度に恐れ、「自然教室はやらない方が安全」という方向に傾くことは、かつて公園から遊具を次々と撤去し、ボール遊びを禁止し、子どもの遊び場がゲームの世界に押しやられていった同じ轍を踏む危険性をはらんでいます。重要なのは「危険からただ遠ざかること」ではなく、具体的な危険を予見し、それに対する対策・判断力を育てるといった科学的視点を、安全議論の中にしっかり組み込むことだと考えます。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されていることから、「避難確保計画」や「施設の休所基準」等を策定するなど、ソフト面の安全対策を行うことで、当面は当該施設の利用は可能ですが、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、保有し続けることになる、現地での再編整備は、長期的な安全性の確保という課題を払しょくできないものと考えています。</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
48	<p>八ヶ岳少年自然の家には、子どもがお世話になりました。コロナ等もあった中で、本当に貴重な経験であったと思います。自然教室には、普段は川崎市という都会で生活する子どもたちが、自然に触れ合うことができ、親の負担がないと、なかなかできないスキーというスポーツを体験できるととても良い機会であります。ぜひ継続をお願いします。ただ、それだけなら、他の施設にて実施することで代用できるのかもしれませんが、川崎市の子ども全員が、同じ川崎市の施設で自然体験をできることは、これは他施設では代用できません。子どもたちは、将来はいろいろの活躍をしていく中で、バラバラになっていくわけですが、同じ川崎市の施設で同じ釜の飯を食べた経験は、大きな繋がり力になると思います。知らない間柄で初対面でも、「君は川崎市出身なの？じゃあ、あの八ヶ岳に行ったよね？」といった会話は、同郷としての親密感にも良い影響になると思います。市の財源としての固定資産の削減は理解しますが、子どもたちの貴重な経験のために、八ヶ岳少年自然の家を残すように、強く希望いたします。</p>	<p>自然教室について、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>また、八ヶ岳少年自然の家については、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、他の敷地での移転整備も含め、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止します。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	D
49	<p>少年自然の家には小学5年生の時に自然教室でお世話になりました。雄大な自然やおいしい空気、アストロハウスでみた満天の星空を、今でも覚えています。自然の家が閉まってしまうのは、そういった経験をする機会が減ってしまうということでもあると思います。それはとても寂しいことです。難しいかもしれませんが、運営を継続していただけますよう、お願い申し上げます。</p>		
50	<p>市内の高校生です。小5年、中学1年ともに、とても貴重な自然の中での活動、学校の友だち等との宿泊体験は、今も記憶に強く残る思い出です。今後の学生がそれを経験できないのは残念に思います。できるのであれば継続していただきたいです。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
51	<p>法人として、子どもたちの自然体験活動の場として年間数回利用しており、個人としても年に何回か利用しています。</p> <p>2年前よりたい肥作りと野菜収穫、カゴメ工場見学などを子どもたち引率で実施しています。たい肥作りについては、富士見パノラマリゾートと模索しながら子どもたちと実施してきており、いくつかの小学校も弊社でテストしてきたSDGsプログラムを実施しています。今年引率した子どもたちは昨年自分たちが作ったたい肥で育った野菜を実際に収穫し野菜が苦手な子どもも食べたそうです。自然の家のスタッフが子どもに慣れていて臨機応変な対応をしてくれ、子どもたち自身で環境問題・友好都市・星空・流通などの学びを得ています。この体験活動に参加した子どもたちが自分の学校の自然教室の際にリーダーや役割を率先してやっていると聞いています。予算の問題もあるかと思いますが、富士見町内での存続を願います。</p>	<p>富士見町内での移転については、現地での再編整備における課題の一つである地形的な課題は払しょくされるものの、自然教室は他施設活用により実施していくこと、現在の施設における自然教室以外の利用の多くが、夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、他の敷地に移転する場合であっても、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地を新たに取得し、60年以上使用する施設を整備し保有することは、利用状況及びコスト比較の観点から難しいものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、施設閉止予定である令和10年度までは、引き続き利用可能です。なお、青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組んでまいります。</p>	D
52	<p>子どもたちの自然体験の場として年間数回利用しています。富士見パノラマリゾートやカゴメ工場など様々な自然体験ができる場所にアクセスもよく、施設の方も子どもたちの受け入れに慣れており、安心して利用することができています。また多くの子どもがたくさんの思い出を残し、成長し、また訪れた時には自分より小さな子どもたちと同じ施設で同じ景色を共有でき、世代は変わっても同じ思い出を残せる場所になっていると感じています。</p> <p>富士見町内での移転に賛成です。再検討の程よろしく願いいたします。</p>		
53	<p>「第一案：現地での再編整備」又は「第二案：富士見町内での移転整備」を希望します。</p> <p>これまで、子どもの自然教室、地元剣道会の夏合宿に加え、毎年夏の家族旅行に、最適の環境と場所として利用しました。これからの子どもたちが、あの自然環境やプラネタリウム他の設備を体験できなくなることは、とても残念なことと考えます。現状継続のためには、施設や設備の安全・経済性の維持が不可欠である点は承知しており、3</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家は、令和6年度実績で、自然教室での利用以外に、団体利用、グループ・家族利用がありますが、今後、他施設活用により、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなることで、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運</p>	D